

保育者・教員養成系大学における音楽教育実践の課題と展望 (1)

— 比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科の「音楽Ⅰ・Ⅱ」の実践より —

Challenges and Prospects Facing Practice of Music Education at a University for Training Nursery and Elementary Teachers (I) : From Practice of “Music I and II” at Faculty of Contemporary Culture, Department of Child Development and Education, Hijiya University

緒 方 満

Mitsuru OGATA

キーワード：「音楽Ⅰ・Ⅱ」・ピアノ演奏スキル・弾き歌い・保育者養成・小学校教員養成

はじめに

保育者・教員養成系大学における音楽教育は必須である。将来、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭等をめざす者は、音楽を学び、種々の音楽能力や歌唱スキル・楽器演奏スキルを身につけていることが求められる。当然のことながら、保育者・教員は保育・幼児教育・初等教育等において音楽教育を必ず実施しなくてはならないからである。

さて、保育者・教員養成系大学における音楽教育は、現在どのように実践され、どのような成果や課題がみられるのであろうか。また、学生にはどの程度の音楽能力や演奏スキルが身につく、音楽教育実践力としてのどのような力を自分のものとしているのであろうか。さらには、学生自身は自己の音楽能力や演奏スキルに関して、どのように評価したり何に満足感や達成感を得たり、何を課題として感じたりしているのであろうか。これらの疑問を少しでも解き明かしていくことは、保育者・教員養成系大学における望ましい音楽教育実践の構築につながることになるであろう。

本稿では、比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科の「音楽Ⅰ・Ⅱ」の実践を示すことによって、保育者・教員養成系大学における音楽教育実践の成果と課題を明らかにするとともに、その解決策を展望したい。

1 「音楽Ⅰ・Ⅱ」の概要

「音楽Ⅰ・Ⅱ」は、子ども発達教育学科教育課程教科内容系科目の1つである。「音楽Ⅰ」は1セメスタに、「音楽Ⅱ」は2セメスタに設定されている。したがって、「音楽Ⅰ・Ⅱ」は入学直後からの1年間をとおした音楽学習の授業となる。教室は学生用電子ピアノ60台と教師用電子ピアノ1台がコンピュータ制御されたML（ミュージックラボラトリー）システムを装備した音楽室で行われる。子ども発達教育学科の入学人数は例年70名～80名であり、授業は2クラス編成で行われ、1クラスあたり学生数は35～40名である。教員は4名である。4名のうちの3名は、小学校または中学校において長年にわたって音楽科授業を実践してきた実務経験者である。また3名のSA（チューデントアシスタント：子ども発達教育学科4年生の学生）が配置されている。つまり、計7名による指導体制である。

「音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業は、MLシステム音楽室で行われること、複数教員によるチーム・ティーチングによって行われることが他大学にはあまり見られない特色であると考えている。

(1) 「音楽Ⅰ・Ⅱ」のシラバス

公開されている「音楽Ⅰ・Ⅱ」のシラバスは以下である。

【概要】

幼稚園・小学校教員，および保育士として身につけておくべき音楽的知識，音楽表現能力，音楽学習指導能力を育成します。授業は，ML教室で行い，鍵盤楽器奏法の習得を主たる目的とします。特に，音楽指導に直結する伴奏（子どもの積極的な歌唱表現を引き出す伴奏，子どもの表情を観察しながらの伴奏，模範唱をしながらの伴奏）の重要性が理解できるようにするとともに，実際の指導に役立つ演奏能力を育成します。

【教育目標との関連】

「子どもの学びと教育」における「指導者としての専門性と実践的な力」に関連しています。本授業はその入り口にあたり，主に自己の音楽スキルの向上が中心となります。

【到達目標】

- 歌詞の内容を読み取り，それを生かした弾き歌いができるようにする。
- 子どもが安心して音楽に親しみ楽しく歌ったりできるといった，子どもの歌唱表現を引き出せる伴奏ができるようにする。
- 拍の流れ，旋律の特徴を大切に鍵盤楽器奏法を身につけることができるようにする。

【「音楽Ⅰ」の授業計画】

全15回の授業を通じて，弾き歌い課題の練習を中心に取り組みながら，学習指導要領に示された文部省唱歌の歌唱練習，ピアノ奏法の習得を行います。15回を5回ずつの3つの期に分け，それぞれの期ごとに数曲の弾き歌い課題を学習していきます。各期の終わりには，課題の発表会を実施し，到達状況を把握できるようにします。

第1回：第1期課題曲「ぶんぶんぶん」「とんぼのめがね」「めだかのがっこう」の提示

第2回：第1期課題曲のピアノ練習

第3回：第1期課題曲の弾き歌い練習

第4回：第1期課題曲の総合的練習

第5回：第1期課題曲実技発表

第6回：第2期課題曲「ありさんのおはなし」「おおきなたいこ」「とけいのうた」の提示

第7回：第2期課題曲のピアノ練習

第8回：第2期課題曲の弾き歌い練習

第9回：第2期課題曲の総合的練習

第10回：第2期課題曲実技発表

第11回：第3期課題曲「たなばた」「おばけなんてないさ」の提示

第12回：第3期課題曲のピアノ練習

第13回：第3期課題曲の弾き歌い練習

第14回：第3期課題曲実技発表

第15回：音楽Ⅰピアノ独奏発表会

ピアノ独奏課題「バイエル70番以上の中から，自分のレベルに応じて選曲した曲」

【「音楽Ⅱ」の授業計画】

全15回の授業を通じて，弾き歌い課題の練習を中心に取り組みながら，学習指導要領に示された文部省唱歌の歌唱練習，ピアノ奏法の習得を行います。15回を5回ずつの3つの期に分け，

それぞれの期ごとに数曲の弾き歌い課題を学習していきます。各期の終わりには、課題の発表会を実施し、到達状況を把握できるようにします。

第1回：第1期課題曲「犬のおまわりさん」「おもちゃのチャチャチャ」「宇宙船にのって」の提示

第2回：第1期課題曲のピアノ練習

第3回：第1期課題曲の弾き歌い練習

第4回：第1期課題曲の〈ペア学習による相互評価，相互ワーク〉を用いた総合的練習

第5回：第1期課題曲実技発表

第6回：第2期課題曲「山の音楽家」「子守歌」「かくれんぼ」「ぞうさん」の提示

第7回：第2期課題曲のピアノ練習

第8回：第2期課題曲の弾き歌い練習

第9回：第2期課題曲の〈ペア学習による相互評価，相互ワーク〉を用いた総合的練習

第10回：第2期課題曲実技発表

第11回：第3期課題曲「思いでのアルバム」「たきび」の提示

第12回：第3期課題曲のピアノ練習

第13回：第3期課題曲の弾き歌い練習

第14回：第3期課題曲実技発表

第15回：音楽Ⅱピアノ独奏発表会〈正装による音楽発表体験学習〉

ピアノ独奏課題「バイエル70番以上の中から、自分のレベルに応じて選曲した曲」

(2) 「音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業展開

授業計画から分かるように、15回の授業を5回ずつの3期に分けて、1期ごとに3曲程度の「弾き歌い課題曲」を練習させる。第5回は、個人別による「弾き歌い」テストを実施している。第1回から第4回の指導過程は、表1のとおりである。なお1回の授業時間は90分である。

表1 指導過程

最初の10分～15分	歌唱学習を実施。教材は小学校共通歌唱教材24曲。
次の10分～15分	課題説明。課題演奏上のポイントを説明。
残りの60分～80分	ピアノ弾き歌い練習。学生は自分に割り当てられた電子ピアノでヘッドホンを装着し練習する。 随時、教師4名とSA3名がすべての学生を個別に巡回指導する。

(3) 「音楽Ⅰ・Ⅱ」の評価の仕方

先述したように、第5回は、「弾き歌い」と「独唱」のテストである。1人ずつ、別室に入り、その部屋の電子ピアノを使用し、教師の前で、それぞれの期の課題曲3曲を、「弾きうたい」させる（3曲とも2番まで）。さらに、指定する小学校共通歌唱教材を独唱させる。教師は、学生個々の「弾き歌い」を聴き、100点満点で評価する。

さらに「音楽Ⅰ」も「音楽Ⅱ」も、授業の最終回は、グランドピアノが備え付けられた多目的ホールにおいて、ピアノ独奏の発表会を実施している。学生が「弾き歌い」課題曲3曲以外に、各自で取り組んできた、「バイエル」、「ブルグミラー」、「ツェルニー」、「ソナチネ」、「ソナタ」などの任意の1曲を、クラス全員の前で披露する。この演奏も評価の対象である。

「音楽Ⅰ」、「音楽Ⅱ」の単位の認定は、課題曲「弾き歌い」及び独唱のテスト3回＋ピアノ発表1回、計4回の小テストの平均点が実技点になり、単位は、この実技点（80％）に出席状況や学習

態度（20％）を加味し、「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階で認定している。

2 「音楽Ⅰ・Ⅱ」に関する学生の諸相と授業の成果

(1) 前期授業開始前実施の音楽に関するアンケートより

① ピアノ演奏経験の有無

2018年度履修者71名のピアノ演奏経験有無は表2のとおりである。

表2 ピアノ演奏経験有無

十分な経験者	18名（25％）
1年未満の経験者	13名（18％）
初心者に近い者	14名（18％）
初心者	26名（39％）

表2から分かるように、ピアノ演奏の初心者は26名（39％）である。したがって、「音楽Ⅰ」の授業はこの初心者層をどのように指導し、「弾き歌い」ができるレベルまで引き上げるかが鍵となる。このことは「音楽Ⅰ」の教育目標を達する上で重要かつ重大である。初心者に対して短期間のうちに、ピアノ演奏スキルの基礎を指導し、さらに簡易な楽曲を「弾き歌い」ができるようにしなければならない。初心者にとってもかなりの学習量や厳しいトレーニングが求められるが、指導する側も一筋縄にはいかない。かなりの指導力が求められる。熟練の実務経験者を3人も配置しているのはこのことが大きな理由である。

② 学生の自由記述より

学生の自由記述から、「ピアノが全く弾けません」「ピアノが不安です」「今まで一切ピアノに触ったことがないので不安」「全然弾けないので大学でがんばります」などの初心者層の率直な思いが読み取れた。初心者の学生は不安を隠しきれない状況にある。他にも「歌を大きな声で歌うのが苦手」「歌があまり得意でない」など歌唱に対する不安も見られる。

(2) 前期第14回目に実施された「音楽Ⅰ」に関する授業アンケートより

表3に、「音楽Ⅰ」に関する授業アンケートの結果をクラス別に5段階評価の平均で示す。

表3 授業アンケートの結果

	1組	2組
授業目標の明確さ	4.74	4.71
授業の理解度	4.68	4.59
授業への工夫	4.58	4.44
聞き取りやすさ	4.74	4.80
集中できる雰囲気	4.63	4.66
自己向上に有意義	4.63	4.59
全体的満足度	4.78	4.51

表3から明らかなように、学生の授業満足度は非常に高いと言える。本授業の意義も学生に理解されているし、授業の進め方も学生に高く評価されている。このアンケートでは予習復習に費やした時間も明らかになったが、半数近くの学生が1日2時間以上の音楽練習を行っていた。1時間以上の音楽練習を行っている学生は全体の約90%に上った。これらのことから、学生は授業を前向きに捉え、練習にも十分な時間を費やして積極的に取り組んでいることが分かった。

(3) 後期 8 回目に実施された「音楽Ⅱ」に関するアンケートより

「あなたは、大学に入ってピアノが弾けるようになった、あるいは上達したという実感がありますか？」という問いに、100%の学生が「ある」と回答した。「やりがいや達成感を感じたことがありますか？」という問いにも95%以上が「ある」と回答した。「もっとピアノが上手になりたいですか？」という問い「なりたい」との回答も100%であった。「音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業が功を奏し、学生たちに望ましい意識をもたせていることが分かる。

3 「音楽Ⅰ・Ⅱ」にみられる音楽教育実践の課題と展望

(1) 課題

学校現場・保育現場では、先生が伴奏しながら児童・幼児が歌う場面が多くある。児童・幼児が歌いたい拍やリズムをうまく調整しながら、より高いレベルの歌唱へと導く必要がある。そのような音楽指導能力が「音楽Ⅰ・Ⅱ」の履修学生全員に備わったかと言えば、残念ながらそのことはほど遠いという事実を認めざるを得ない。1年間で一定程度の「弾き歌い」能力を養成することはできるものの、音楽科授業や保育実践の即戦力となり得るかは疑問である。また、学生のうち10%程度は弾き終えるのが精一杯という状況にあり、とても子どもの伴奏が自在にできるというスキルのレベルではない。

(2) 展望

「音楽Ⅰ・Ⅱ」によって、学生の演奏スキルが向上し、意識が高まっているのも事実である。ML音楽室は、年中、授業の空き時間に練習する学生で賑わっている。今後は、高まった学生のスキルや意識をその他の音楽教育系授業に繋げることが肝要だと考えられる。比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科の教育課程には、「音楽科教育法」「子どもと表現Ⅰ（音楽）」「幼児音楽演習Ⅰ・Ⅱ」などの音楽教育に関する授業が用意されている。また、「保育実習事前指導」や小学校実習に備えた「教科授業研究」などにおいても音楽に関する模擬保育や模擬授業が実施される。これらの授業に「音楽Ⅰ・Ⅱ」が音楽教育基礎科目としてどのように土台となっているのか吟味してみる必要があるであろう。また、演奏スキルが現在も未熟な学生に対する補習体制も必要である。子ども発達教育学科には、幸いなことに小学校音楽専科経験の長い小学校コーディネーターに勤務していただいております。その方に学生の空き時間を利用した補習をお願いしている。その教育効果は非常に高い。今後は、さらに検討重ねより良い音楽教育をめざす必要がある。

おわりに

本稿では、「音楽Ⅰ・Ⅱ」の実践を紹介し、その授業の成果を示した。さらに課題も明らかにし、今後検討すべき問題も提起した。保育者・教員養成系大学における望ましい音楽教育実践の実現につながれば幸甚である。なお、「音楽Ⅰ・Ⅱ」以外の授業についても別の機会において検討したい。

【主要引用・参考文献】

- ・小林美実編（1975）『子どものうた200』チャイルド本社
- ・吉富功修・三村真弓編著（2010）『小学校音楽科教育法 学力の構築をめざして』ふくろう出版
- ・文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社
- ・比治山大学（2018）『学生便覧』